

課 別 題	新規 継続	継続	経常・特別別	経 済 学	担 当	開 発 箇 所	日 向 (都 農) (尾前第)	期 間	昭和 56 年度 — 昭和 57 年度	予 算 科 目	技 術 開 発	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額	
			目標との関連	4-1								物 件 費	調査用品	5	円	千円	
												役 務 費	現像、その他				
												人 件 費	(基 礎) 時	(2/1) 2		()	
												計	—			()	
目 的	スギ(ロキ)とクスギを混植、又はクスギのぼう芽更新を行い、しいたけ原木生産と間伐等の組合せ林を梢置場に活用することにより、合理的しいたけ生産技術と施業法を確立する。																
全 体 計 画		実 施 経 過		当 年 度 分													
				実 施 計 画				実 施 結 果				評価および普及計画					
1. 混植方法 (1). 二条植栽 (2). 芝刈地植栽方法		1. 昭和56年度 (1) 試験地設定 ア. 厚鏡国有林17号林内 イ. 面積 2.00HA ウ. 植付月日、昭和57年4月植栽 エ. 植付方法、ヒキ二条、クスギ二条植		1. 成長量調査 2. 植生調査 3. 保育実行 (1) 下刈(筋刈) 4. ネズミ駆除(138に)				1. 成長量調査 (1) 138に林内 ア. 根元径、スギ 2.9cm, クスギ 1.2cm イ. 樹高、スギ 166cm, クスギ 75cm (2) 17号林内 ア. 根元径、スギ 3.4cm, クスギ 2.6cm イ. 樹高、スギ 182cm, クスギ 120cm				(138に) スギは、ほとんど葉を落し、新葉が枯死し、 間伐による生長を滞り 返しているが、枯死に至 るものは少なく生育は 良好である。クスギは ネズミの害によりほとんど 根の腐敗を著し、新 分が枯死している。 跡地のヒキ造休地にも 被害が著し、駆除 が必要である。					
2. 保育方法		2. 昭和57年度 (1) 試験地設定 ア. 三方界国有林138に林内 イ. 面積 2.25ha ウ. 植付月日、昭和58年3月植付 エ. 植付方法、スギ二条植、クスギ二条植						2. 植生調査 (1) 頻度調査及び被害調査を行った。 保育下刈作業で断刈を行ったので被害 はなし。									
3. クスギの収穫とスギ(ロキ)の 間伐の合理的伐出法の検討		(2) 調査事項 ア. 成長量調査						3. 保育 (1) 下刈作業 ア. 断刈を実施、17号、56/2号、 138に、51/1									
4. 成長量調査		3. 昭和58年度 (1). 成長量調査						4. ネズミ駆除は積雪により実行が 出来なかった。(61年4月に実行予定)									
5. 収益性の調査		4. 昭和59年度 (1) 調査事項 ア. 成長量調査 イ. 被害調査 ウ. クスギ切断処理(各20本) (ア). 地上5cm (イ). 地上10cm (ウ). 地上20cm										ヒキ、クスギ共に生育 良好であり、被害も 少ない。					

試験経過記録

(様式4)～/

15分指示

日向 営林署

課題

クヌギ混交林施業法 (川北尾鈴国有林17号林小班)

1. 成長経過

(1) 成長量

樹種	区分	調査月					日
		57.4 (cm)	57.10 (cm)	58.10 (cm)	59.10 (cm)	60.10 (cm)	
ヒ	根元径	0.7	1.0	1.6	2.2	3.6	
ノ	樹高	3.7	6.6	10.2	14.4	19.0	
キ	伸長量		2.9	3.6	4.2	4.6	
ク	根元径	0.7	1.0	1.2	1.6	2.7	
又	樹高	3.8	5.7	7.3	9.7	12.3	
ギ	伸長量		1.9	1.6	2.4	2.6	

樹種	調査	健全	木	健全	木	再生	木
	本数	本数	根元径	樹高	本数	根元径	樹高
ヒノキ	94	78	2.6	1.90	92	2.4	1.82
クヌギ	92	67	2.7	1.23	79	2.6	1.20

(2) 伸長促進(切断)

ア、地上5cm区 本数20本 切断時間 15分 切断口径 7.3 $\frac{1}{16}$ 伸長量(50~140) 90cm; ほう芽発生量(単樹)(1~4) 2.4本
 イ、" 10 " " 20 " " 14 " " 6.8 " " (50~125) 94 " " (1~6) 2.4本
 ウ、" 20 " " 20 " " 12 " " 5.8 " " (55~145) 104 " " (2~6) 2.2本

2 保育

(1) 下刈作業

年度	57		58		59		60	
種類	方法	功程(歩)	方法	功程	方法	功程	方法	功程
試験地	全刈	6.1	筋刈	6.6	筋刈	5.9	筋刈	7.0
普通林	"	7.1	"	6.7	"	6.5	"	6.2

普通林口径は当署平均口径

3. 被害

植栽方法	樹種	寒風害	乾燥害	虫害	害獣	害切	損被害計	枯損率
一条植	ヒノキ		(1)		(7)		(8)	0
	クヌギ			3	2	(1)	5	10
二条植	ヒノキ	(2)	1	1	(4)		2	4
	クヌギ	6	(6)		2	(1)	8	18
計	ヒノキ	(2)	1	(1)	1		2	2
	クヌギ	6	(6)		2	(1)	10	28

記載要領

- 調査結果及び考察を記入する。
- 状況写真は別産整理する。

状 況 写 真

区 分 指 示

日 向 営 林 署

(様 式 6)



切断をしてない苗(1381)



切断を行った苗(5cm区)(17号)

状 況 写 真

区 分 指示

日 何 営 林 署

(様 式 6)



① 5cm区のぼう茅の状況



② 10cm区のぼう茅の状況



③ 20cm区のぼう茅の状況

※ 昭和60年3月18日に切断試験を行い、生長期後の状況。

状 況 写 真

区 分 指示

日 向 営 林 署

(様 式 6)



寒害を受けた苗が再生
したが二又となった。



寒害を受けた穂先は枯れ
縮み新しい穂が二又となって
生長している。

中間
技術開発課題完了報告書

日向 宮林署

課題名	クスギ混交林施業(中間)					
課題区分	指示	開発期間	56~60	担当	計画課	
目標	スギ(ヒキ)とクスギを混植,又はクスギのほう芽更新を行い,しいたけ原木生産と間伐等の組合せ林を槽置場に活用することにより合理的しいたけ生産技術と施業法を確立する。					
結果	<p>槽置地区はスズノケの多い林地で鼠の害を受けクスギのほとんどが根腐れ被害を受け枯死した為 スギの純林になりつつある。</p> <p>尾鈴地区は,現在のところ,ヒキ クスギ 共に良好な生育を示しており昭和60年に一部切断によるクスギのほう芽試験を行ったところ平均2~3本のほう芽が良好生育良好で仕立て本数別施業法の確立も合せて行う。</p>					
施業及び作業の内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容
	伐採の方法		(17.4)		(138.4)	
	樹種					
	林齢	年	地 拵 (56年) HA	地 拵 (57年) HA	2.00	2.25
	樹高・直径	cm	植 付 (56年)	植 付 (57年)	11	11
	樹高	m	下 拵 (57~60)	下 拵 (57~60)	11	11
	1本あたり本数	本	切 断 (60)	60本		
	材 積	m ³				
開発経過と調査内容						
昭和56年度 実験地設定						
昭和57年度 植付 及び 植付時調査 生長量調査						
昭和58年度 生長量調査						
昭和59年度 "						

昭和60年度 クスギ切断調査
生長量調査

評価及び普及指導

(138.4)
スギは,ほとんど寒害を受け新葉が枯死し,再生による生長を繰返しているが枯死に至るものは少なく生育は良好である。クスギはネズミ被害を受け大部分が枯死し,スギの純林になりつつある。又附近ヒキ造林地にも被害が発生し,駆除が必要である。

(17.4)

ヒキ,クスギ共に生育良好であり,被害も少なく,現在のところ混交林として成林しつつある。